

東京女子医科大学看護学会第 10 回学術集会 シンポジウム
「東京女子医科大学における看護教育と実践力の探求」

中堅看護職の実践力の探求の支援の一つとして ～クリニカルコーチの育成～

坂本 倫美 (東京女子医科大学病院)

看護職経験 10～15 年の中堅看護師数は、全体の 29% である。中堅看護職は、女子医大病院のキャリアラダーⅢの能力を有する者が多く、「リーダーシップを発揮しながら看護実践を行いスタッフ指導もできる」看護職である。当院が目指す看護職像「高度実践力を持つ全人的ヒューマンケアの担い手」になっていく人材であると考えている。中堅看護師が、看護職として進みたい道を見だし働き続けられること、自信を持って自分の看護実践を経験が少ない看護職に伝えていくことが女子医大病院の看護の質の維持、向上につながることは明白である。

看護職キャリア支援センターでは、平成 21 年より「クリニカルコーチ育成研修」を行っている。このプロジェクトは中堅看護師のキャリア発達支援の一つとして活用されている。現在、第 1 期～3 期の 59 名のクリニカルコーチが認定され、4 期の 27 名が研修中である。クリニカルコーチの平均経験年数は 11.3 年で、まさに中堅看護職の世代である。研修は成人学習理論を基盤としコーチングスキルを使いながら参加型学習をおこなう。看護職として豊かな経験を持つ研修生の知識や技能を効果的に発揮し、教え込むのではなく人の成長を支援することを大切にできる人材を育てるという考えのもとに行っている。クリニカルコーチが誕生して部署での活動は 3 年目になった。部署で看護実践のモデルとなりながら新人、プリセプターの指導、チーフナースの相談役、主任や師長と協働して教育・指導を行っている。活動評価のアンケート結果では、新人看護師、プリセプター、チーフナースへの関わり、教育計画の企画運営が効果的に行われていることが示されていた。担当師長からもクリニカルコーチの活動がチームに良い影響を与えていると回答があった。

課題としてさらに自己研鑽していく必要があると述べられていた。このことは、部署で活動したことでさらにクリニカルコーチとしての資質を磨き自らの看護実践力を探求し続けていくことの重要性に気づいたと考えている。
